

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 綴文

いろんな差があるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 517 滞貨
2019年6月 4/10
掃号

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359
T&F 043-291-2917

も・く・じ

- 感想に励まされる毎日 2 ページ
- お便りゆと 5.11
- 改憲の動き加速 6
- 中国とアメリカほか 8
- 式根島 14
- 野川を歩く 16
- 上野三碑 17
- 山仕事(お茶摘みパーティ) 21
- け・い・じ・ば・ん 26

ツケの払いは 参院選後?

(滞貨一掃と思っただけど)
10分の女掃に終わりました
残りは、またこんど。

もうちょい待って。この見

月 日現在の
会員数 名



5月28日「東京新聞」さい。

題 字 数 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト : 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ R330

※この号の切手は、



日本・フィンランド外交関係樹立 100周年

The 100th Anniversary of Japan-Finland Diplomatic Relations

山仕事 (4月、ら茶摘みパーティ)

4月25日(木)、晴。伊藤(康)、山崎、落合さんと4人、敷地駅で、鈴木正士、久米、若林さんに迎えされる。買物のあと、「東だれ」(ツツジの斜面)の草刈り伸びたワラビ採り(パーティ当日には伸び過ぎる)、ミョウカ畑の草取りなど。その後、庭の草刈りをしている、東の奥にクマガイソウらしきものを発見。久米さんに確かめてもらおうと、クマガイソウにまちがいなしとのこと。敷地川に面して今年も咲いていたキンランとともに、立て札を立ててもらふことにした。



ワラビを採る
久米さん
カメラ: 正士さん



クマガイソウ



キンラン

『原色牧野植物大図鑑』(北隆館)から模写

17:29、敷地着の原田さんを迎え、夕食。伊藤、久米さんによるメニューは、サゴシの香味焼き、豚肉と里芋の煮物、ワラビのお浸し、原木シイタケのバター焼き、ホワイトアスパラヒスナックエンドウ(久米さん)のサラダ、キヌサヤ(久米さん)の玉子とじ、お母さんが皮をむいたフキのうま煮に正士さんの手打ちそば、久米さんのかえしとだし。千葉・我孫子市の川島幸子さんから「雪の茅舎」2升と缶ビール2ケースが届いており、頂く。



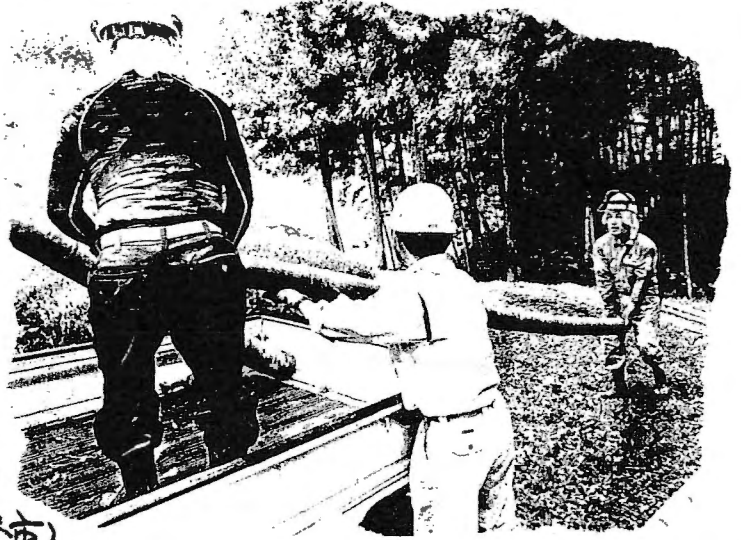
4月26日(金)。午前中は降ったりやんだり。松田さんも参加。昼食は、明日のために食枝を届けに来た人を含め、11人で賑やかに。エッ、10人じゃ居ないぞ? 正士さんがカメラマンなのです。



お昼のメニューは、タケノコ入り玉子丼、フキのきんぴら、春キャバツのコーンスロ
ー、みそ汁とつけ物。

午後は竹伐り。真竹の太いのを
選んで、4mの長さのを40本ほど
伐って運ぶ。太いのは直径が15cm
ほどあり、かつぐのも大変だ。

竹の大半は、パーティの際の腰か
けになるが、その一部を使って若林
落合さんが食器と箸作り。若林さん
は日頃竹細工の指導をしているので
わかるが、落合さんの奥家(愛知・豊橋市)



が竹屋さんだったとは知らなかった。この二人、暗い夜まで、さらに翌朝まで頑張った。

その間に、菅原歎一さん(『かがり火』発行人)、杉浦シェフ、明日の演奏者(小
鼓、薩摩琵琶)と、その二人を紹介してくれた竹中さん、竹中さんの古姉さん林
玲子さんが見える。林さんは滋賀・大津市在住、嘉田由紀子元知事たちと共に、
原原翁、環境問題で運動を続けておられるとのこと。



夕食は16人もの大世帯で、
タケノコとソラマメの炒め物、新
玉ネギとスパム(豚肉缶詰)の重ね
焼き、トリのから揚げ、新ゴボウのバ
タ炒め、タケノコのめんま風、新玉
ネギに正士さんのおそば。

竹中さんの「久保田千寿」を
頂く。 23:55おしま。

4月27日(土)、夜来の雨も上がり、すっきりとした青空。正士さん年間最大のイ
ベント「お茶摘みパーティ」の幕明けた。

杉浦シェフを中心に、康江、久米、野口(千葉)弓江さんなどが台所で調理を
始める。ぼくは、柳原幸雄さん(バラさん)と受付係。バラさんは先日、原因不明の体調
不良で救急車の世話になったとのこと。少し遅れてお母さんの介護を終えた水島
加寿代さんが加わる。受付は楽チンと思っただがさにあらず。会費(4000円)を受
けとり名簿のチェックは当然だが、オムテープに名前を書いてもらい胸に貼リつけ、
落合若林さんの作った竹箸とコップ(一日中使うよ、名前を書いてもらう)を渡す。

さらに、後日おみやげとして送付するお茶の品種(中ブレタ、さやまおひり、在来)からひとつを選んで名簿に記入...と、けっこうやる人が多い。菅原さんは、若林さんから引き継いだ駐車場の管理。

次々とやってくる参加者。尾上美智子さんが、いつもの焼肉セットを軽トラックに積んでみえた。尾上さんは今春、佐藤貞敏さんのお見舞いに、桜の花を贈られたとのこと。感激した佐藤さんから聞いて、ほくもグッと来。

深谷孝さんが、イチゴを沢山持参。

名簿に無くて楽しんでた山中圭子さんが、友人と二人でやってきた。最近設立した、ザ・シニア・ジャパン(株)の名刺には、「ボケも病も老人力! 輝いて生き切ろう!!」とあった。いずれ事業内容を知らしてくれることだろう。

京都からはるばる前田聡さん一家がやってきた。友人の小川剛さんを紹介された。登山家で山のガイドもするそうだ。

静岡新聞論説委員長の海野俊也さんを紹介された。かねて正士さんに注目。この日のことも記事になるようだ。

8:55敷地着の天浜線で、川島幸子さん(SOMPOジャパン代理店)と友人が到着。受け付けが忙しいので、山ちゃんに迎之に行ってもらった。

齋藤俊行さん(ローランドOB)から3年前に購入した楽器について、「弾いてますか?」ときかれ、「2回だけ弾いたをあげました」と答えた。暇がないのだ。

残念だったのは、武ちゃん(掛川市横須賀)の姿がないこと。病気の関係かといふ心配したが、親類の不幸のためときいて、ひと安心。

山菜採りに出かけた人々が三々五々戻ってくると、もちつきが始まる。今年はぼくの出番がなく、英ちゃん指導の細いつき棒で、白餅とヨモギ餅がつき上がる。

庭では、山ちゃんが尾上さんの焼肉セットで4kgほどの豚バラブロックを焼き始める。三宅伊都子さんがそれを手伝う。(左の写真)

軒下ではソバ打ちが始まる。打ち手は野中佳美さん。県下で二人ほいほいと



肉を焼く山崎さんと三宅さん



佐藤さん

尾上さん

ぼく

原田さん

いう四段の腕前だ。松本茅廣さん手伝い、三種(普通、茶、桜)のソバが上がる。座敷では、明治大学の川嶋雅章教授が山菜の天ぷらを揚げ始める。林玲子さんが手伝う。

11:30に敷地駅に着く佐藤(貞)さんを迎へに行く。久しぶりに会う佐藤さん、少しやせたが、握手すると力強い応えが返ってきた。

その間、参加者の手によって長大なスギ板が持ち出されてテーブルとなり、太い青竹を結束して腰かけが作られる。

正午、調理された品々が一斉に配られる。それを盛るのは、若林、落合さん制作の青竹の皿だ。ふとしきり、飲み、喰い、敬談。

山ちゃん誘いに応じて参加した川島幸子さん。ヒメシヤラの林の木洩れびびとさよ風が気持よく、御酒をたんときこしめしてご気嫌美しく、大きな声で怪気炎をふりまく。日頃、歯切れのよいツイートに接している雑報の読者はともかく、初めての人の中にはびっくりした人も居たろう。そのツイートのファンという伊藤英雄さん。会いたいというので紹介すると、二人、熱心に話こんでいた。

神原敬友さんが焚火で釜炒り茶をつくり、深谷さんがその燻で竹の子を燻く。

14時、コンサートが始まる。竹中さんが紹介し、着物の二人が演奏を開始。本来、薩摩琵琶と小鼓と一緒に演奏するなど例が無いそうだが、若い二人はその垣根を越えてみせた。高砂に始まり、巖流島の語り、しほいの鶴亀では正士さんの長寿が事祝がれた。よいコンサートだった。

16時、パーティ終了。参加者の手によって手早く片付けられる。散会した後、居残り組が後始末。ぼくは、雨上がりの駐車場についての轍跡の修復組に参加。

夕食は、20名ほどが集まって宴会の残り物を中心に二次会。前田さんが京都から持参した豆腐も頂いた。松本さんが打ったソバも。川嶋教授から「王紋年輪」(新潟・新発田市)が披露される。

宴酣。二人の奏者にリクエストがあり、鶴亀が再度演奏されることになった。昼は正士さんの長寿が祝われたが、夜は誰を?と問われ、「春子さん(お母さん)と提案。お母さんはうしろの方でさいてもらった。

散会后、女性4人(川島さんと友人、原江さんと江さん)は久米さん宅へおせわになりました。母屋では、菅原さん、美ちゃん、山ちゃんとぼくが寢袋にくるまる。

4月28日(日)、晴。いつものように、6時になるのを待って母屋のTVをつけ、新聞を読む。TVは、福島県大熊町で元役場の総務課長など6人で「じい部隊」を結成、帰宅困難地域の草刈りなどにとりくむ姿を映していた。世間では、「原発から金をもらっていて、今更被害者面して」という人もいるようだが、日頃、荒れてゆく里山を見ているだけに、見えて目の蛇口がゆるんだ。

菅原さんは朝食後帰られ、杉浦シェフは調理の勉強のため東京へ。残りは川島教授を中心に大量の布団を干し、ゴミを燃す。尾上さんからは柏餅を、地元の青山忠義さんからは原木シタケを頂いた。

昼は恒例のカレー、キヌウリとレタスのサラダ、ハムと野菜のサラダ、ワラビの煮物を頂き、帰宅。来年(2020年)は、4月25日(土)の予定。

～ お便りから ～

◆ 先日は鈴木正士さんのお茶摘みの会でお会いする事ができ、とても嬉しい一日でした。(敬称略)

木もれ日の爽やかな空間でパーティを楽しみ、皆様の笑顔が素敵でした。定期的に山の手入れをされている猫の手クラブのご活動があってこそと思うと、感動も入りました。

今回はゆっくりお話を伺えませんでした。これをきっかけに山仕事のお手伝いをさせていただきたく存じます。そして今回ご縁をいただいた方達のご活躍を縄文誌で知る事を楽しみにしています。

前田聡・知美さん
(京都市)

(遠くからよく読んで下さいました。小川さんを紹介していただき、豆腐まで。ありがとうございます。山仕事への参加、お待ちしております。文中「様」を「さん」に変えましたが、かねて「様は、宛名だから」とお願ひしているので、ご了承下さい。

◆ 正士さん宅のお茶摘み&コンサートでは、ありがとうございました。

正士さんのことが、静岡新聞の社説「大自在」に掲載されました。コピー送りますね。「めだかの便り」も送ります。

又、お会いできるのを楽しみにしています。

神原幸雄さん
(正士さん宅の近く)

(一緒に受付をして楽しかったです。記事では猫の手クラブにも触れられていて、嬉しいです。)

平成31年(2019年)4月30日(火曜日) 朝刊 001ページ

大自在

青空に映える茶の新芽がまぶしかった。10連休初日、磐田市最北端の山間地、大平で開かれた茶摘みと食事・コンサートを兼ねた交流会に誘われた。主催の鈴木正士さん(70)は旧豊岡村の元職員。自宅や茶園を開放して茶摘み、山菜狩りを楽しませ、その場で味わってもらう趣向だ。鈴木さんは豊岡村で主に産業振興を担当していた。2005年、村が磐田市と合併したのを機に退職。大平で農林業を営む。23年続いているこの催しに、地元のほか県外も含め今年は100人近くが参加し、山の幸と自然を堪能した。▼平成がきょう幕を閉じる。この30年、地方が置かれた環境や自治体の姿は大きく変わった。「平成の大合併」(1999～2010年)で市町村は1727に半減、県内も豊岡村などがなくなり、74市町村が35市町となった▼基礎自治体の基盤確立が目的の大合併だったが、地方の財政難は厳しさを増す。高齢化と人口減少で、さらに半数が「消滅自治体」になるとの警鐘も現実味を帯びる。視点を地域に向ければ、消滅可能性の懸念は広がる。大平地区も例外でない▼人手をかせげなければ自然の管理はできない。鈴木さんを支援しているのは、農水省OBらが提唱する「猫の手クラブ」。首都圏などから有志が自費で月1度訪れ、楽しみながら農地の管理や下刈り・間伐などの助っ人となる。交流会にも参加していた▼令和の時代にも地域を持続させたい。猫の手というより「神の手」を借りたい。「猫の手」というより「神の手」。鈴木さんは感謝の気持ちを、こう発信している。

2019.4.30

4/25～4/28 お茶摘みツアー（パーティ）



ワラビを採る久米さん



4/25 夕食
(交流会)



4/26 昼食



4/26 竹切



4/26 夕食(交流会)



4/27 肉を焼く
山崎さんと三宅さん



左から佐藤さん・尾上さん・厚正さん・原田さん